

令和5年度(2023年度)学校評価報告書

令和6年(2024年)3月7日

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌西陵高等学校長



次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 教育のプロフェッショナルとして、「改革の精神」を持った教育活動の推進
- (2) 「明確な目標設定と情報の共有」による目標達成のための協働の実現
- (3) 教職員および校務分掌間の一層の連携による効果的かつ効率的な運営
- (4) 教育の「可視化」を図り、家庭や地域に「開かれた学校づくり」の推進

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・落ち着いて意欲的に授業に取り組むことができる学習環境を構築するため、教員間で授業や考査でのマナーやルール、教務に関する業務日程や手順を共有することができた。また、授業研究や校内研修を積極的に実施し、ICTを活用した授業展開の構築に向けて個々のスキルアップを図ることができた。	・学校教育目標の達成に向け、コロナ禍の中ではあるが、心身ともに健康でコミュニケーション力をはじめ、社会に貢献できる資質や能力を身に付け、高める指導を期待する。
改善方策	・落ち着いて意欲的に授業に取り組むことができる学習環境づくりに向け、生徒の端末の有効利用やデジタル教科書の導入について検討を要する。 ・今年度より新分掌として「情報管理部」を立ち上げ学校ホームページを随時更新する等、地域への情報発信に努めた。次年度は業務を整理し、より機能的な業務推進を図りたい。 ・年々、低学力層の生徒の入学が増加傾向にある。生徒の実態に即した授業展開及び業務の明確化及び学年の垣根を超えた情報の共有を図り円滑な組織運営に務める。	
生徒指導	・定員割れで入学する多様な生徒への対応が必要となる。基本的生活習慣の確立や問題行動の未然防止に向け、学年団や関係機関との連携強化を図る。 ・新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、コロナ禍により工夫・改善を取り入れた効果的な校行事の在り方を追求する。	・新型コロナウイルス感染症が5類へと移行し、今年度は地域の高齢者対象に「スマホ操作支援教室」や西区の地域行事「水車で交流会」にボランティア局が参加してもらい大変感謝している。今後も引き続き地域と学校とのつながりを意識して関わっていききたい。
改善方策	・次年度もボランティア局、生徒会部を中心に地域との連携を強化し、地域に開かれた学校づくりを推進する中で、生徒の育成に努める。 ・コロナ以前の学校行事を踏襲するのではなく、コロナ禍で工夫・改善してきたノウハウを生かした行事の再構築及び次年度の夏季休業延長に対応した学校行事の精選が急務である。 ・多様な生徒に対応するため、Hyper-QUを導入したが、次年度はデータをより効果的に活用し生徒理解に繋げるかが課題である。また、SCやSSCなどの関係機関との連携強化に努め、カウンセリング及びサポート体制の機能体化を推進する。	
進路指導	・「One-up」プロジェクトで培ってきた指導実績を踏襲した「One-up One-action One-change」をスローガンに生徒の個々の進路目標に対応した指導及び運営に努める。	・「One-up」プロジェクトは西陵高校の代表的な取組である。生徒個々の進路実現に向け、生徒の意欲を引き出す指導に努めて欲しい。
改善方策	・模試の在り方等、現状の生徒のニーズに合った「One-up」プロジェクトの見直しが必要である。 ・進路指導部を主体とした、総合的な探究の時間における体系的なプログラムの確立を図る。	
公表方法	・学校ホームページやPTAだよりへの掲載 ・学校評議会及びPTA役員会における報告 ・西野地区関係団体連絡協議会における報告	

3 添付資料

- (1) 学校教育目標等における到達度の検証について(学校評価)(教職員対象)
- (2) 教職員の内部評価に係る学校関係者評価
(PTA役員、学校評議員、地域住民＝西野地区関係団体連絡協議会対象)